

ハーブソン Hokkaido 2021

結果・速報版



北海道爬虫両棲類研究会

はじめに

「ハーブソン Hokkaido 2021」は、2021年4月17日～8月16日までの期間に、北海道爬虫両棲類研究会主催で行われました。今回で10年目(9回目)となり、だいぶ回数を重ねてまいりました。本年は様々なことが起こりましたが、沢山のデータのご送付を頂き大変ありがとうございました。ご参加下さった方々に御礼申し上げます。

今回の速報は、簡易的な結果報告と競技部分の受賞の発表となっております。詳細な報告、及び結果等については、2021年～2025年のデータを蓄積の上取りまとめ、今年度内に報告書を作製する予定であります。

北海道爬虫両棲類研究会
会長 徳田龍弘

調査の結果について(9/12までの集計分として)

(さっぽろ生き物さがし【賞授には関わりません】のデータはまだハーブソンへの反映がまだ出来ていないので未集計です)

参加チーム数:22 チーム(昨年比+6)

ばいかだ / 自然ウォッチングセンター / のっばら研究所 / 滝野の森 / とかち蛙探偵団 / あげは / ぼんじろう
チーム西堀 / talone / えりも生き物調査隊 / Kaorino2 / チームきたはく / HHS 情報収集 / もえ / カナヘビ探検隊
櫻庭 / リュウ / 北海道のネイチャークルーズ / 柳田氣里 / ミキTG / 夢の国 / 北海道希少生物調査会

参加者数:のべ 56 名(昨年比+12)

調査されたエリア:166 エリア(昨年比+109)

期間内調査で確認された種:18 種(昨年比+4) + α (雑種?)

ヒガシニホントカゲ / ニホンカナヘビ / コモチカナヘビ / ジムグリ / アオダイショウ / シマヘビ
シロマダラ / ニホンマムシ / クサガメ / ミシシッピアカミミガメ / エゾサンショウウオ
ニホンアマガエル / エゾアカガエル / アズマヒキガエル / ツチガエル / トウキョウダルマガエル
トノサマガエル / アカウミガメ / + トノサマ×ダルマ雑種?

頂いた生息データ数:

正式記録(確認データあり): 398(+200), 参考記録(確認データなし): 40(+18)
その他の期間記録(確認データあり): 133(+89), 番外(史跡名勝)データ:0(-1)

各詳細データについて

速報データは以上です。各データ昨年より増えております。コロナ禍の中、皆さんとても頑張ってくださいと思います。改めて御礼申し上げます。細かな種ごとの分布や検討については、2025年度の発行を予定している「ハーブソン Hokkaido2021-2025 結果報告書」(北海道爬虫両棲類研究報告別冊)にて行う予定です。

受賞等について

「ハーブソン Hokkaido 2021」では、調査をして下さった方々に5つの賞を検討いたしました。各受賞チームには賞状等を贈呈する予定です。

★最優秀賞

ハーブソン期間中に最も多くの種を、正式記録として報告して下さいましたチームです

受賞者: **もえ**(13種) 2位: **ばいかだ**(12種) 2位: **自然ウォッチングセンター**(9種)

★アマガエル賞

ハーブソン期間中にニホンアマガエルを最も多くのエリアで確認したチームです。

受賞者: **ばいかだ**(10 エリア) 2位: **夢の国**(7エリア) 3位: **とがち蛙探偵団**(6エリア)

★ばいかだ賞(最多エリア調査賞)

ハーブソン期間中に最も多くのエリアを、調査して下さいましたチームです。

受賞者: **夢の国**(23 エリア) 2位: **ばいかだ**(19 エリア) 3位: **とがち蛙探偵団**(17エリア)

★Booby3賞

種数が最下位から3番目の方、1チームに授与。同種確認チームが複数おりましたので、抽選の結果、以下のチームが受賞しました。

受賞者: **リュウ**(1種)

★中島宏章賞(写真賞)

写真賞に応募のあったものを、野生動物写真家の中島宏章氏(<http://hirofoto.com/>)に選定していただきました。



受賞者: **夢の国**(写真題:ブラックジャック)



次点: **滝野の森**(写真題:滝野の森の二頭竜)

おわりに

この発行物は速報ですので、簡易発表です。細かな種の分布確認や考察、参加者の感想やハーpsonの今後についてなどを細かく記録したものは、今年度発行予定の「北海道爬虫両棲類研究報告」別冊版「ハーpson Hokkaido2021-2025結果報告書」にて報告する予定です。

ハーpson Hokkaido 2021は昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響を検討し、規模を小さめに実施しました。遠征をせず、身近なエリアでの活動チームが多かったようです。データは昨年から見ると大幅に増えており、個々で楽しんで両生類や爬虫類の観察をして頂けたのではないかと思います。また、今年はアマガエルカップとしてアマガエルの情報を募り、58 データを収集しました。今後も様々なカップを行い、その年の情報収集を充実させていきたいと思ひます。各地域でご参加、ご協力下さった皆様に感謝いたします。本年度の助成金は受けず、報告は速報のみとしています。データをまとめた報告書の作成印刷等は上記の通り、2025 年度を目標に行つて参ります。完成を楽しみにお待ち下さい。

結果について興味深いところは、江別エリアで確認された、トノサマガエル(国内外来種)ともトウキョウダルマガエル(国内外来種)とも判断しきれないカエルが1例(複数個体)確認されているところでしょうか。このエリアでは、過去の生息地確認により、このエリア周辺で両種がそれぞれ別々に確認されており、生息地が重なる傾向がみられているため、雑種が生じる可能性はあると思ひられます。もともとこの2種の識別は難しく、雑種発生により中間的な個体が出てくると、写真でも判定ができない事態が出ると思われ、今後のハーpsonでの取り扱いを考えていかねばと思ひました。(雑種が実際に発生しているのか、遺伝的にも気になる場所ですね)

ハーpsonではデータを蓄積することを主な目的としており、将来的にはこれらのデータから生息状況の推移や、その時代の分布状況などを記録しておければと考えています。今後も可能な限りデータを蓄積していきたいと考えております。

伝染病の蔓延状況がおさまリ、皆でワイワイとハーpsonしながら観察会などを開くというのも、楽しそうだと思います。いつか実現したいところです。

今後ともハーpson Hokkaido 及び、北海道爬虫両棲類研究会をよろしくお願ひいたします。

執筆：徳田龍弘(北海道爬虫両棲類研究会・会長)

ご応募いただいた、ほかの写真賞



寝ぼけまなこの蛇 冬 長かった(ミキ TG)



命をつなぐ(柳田氣里)



SHEEEE(ばいかだ【選考外】)